

第2項 湯殿跡庭園

(1) 構成要素

①本質的価値を構成する要素

【地割・地形】

朝倉館跡庭園と隣接した斜面の高台に位置し、山裾に面して園池が設けられている。園池の南東には、観音山があり庭園の背景を構成している。

【石・石組】

護岸石組や景石、滝石組、三尊石組、亀島状石組によって園池が構成されており、山裾には導水路（石組水路）が設けられている。滝石組や三尊石組などの立体的な石組配置が見られるが、他3庭園と比較してその数が多い。平坦面南西には空濠の石垣があり、園池からの排水路と推定される穴が確認されている。

【水系】

観音山の山裾に沿って、導水に使用していたと推定される水路がある。水路からの水は、滝石組を介して園池内に導水していたと考えられる。現在は導水並びに排水方法が明確となっていないため枯池となっているが、雨天時には水が溜まることも確認されている。園池の南西部には、オーバーフローの機能を持っていたと推定される石があり、水位が調整できていたと考えられる。

【構造物】

庭園の南西には、空濠石垣が設けられている。

【その他】

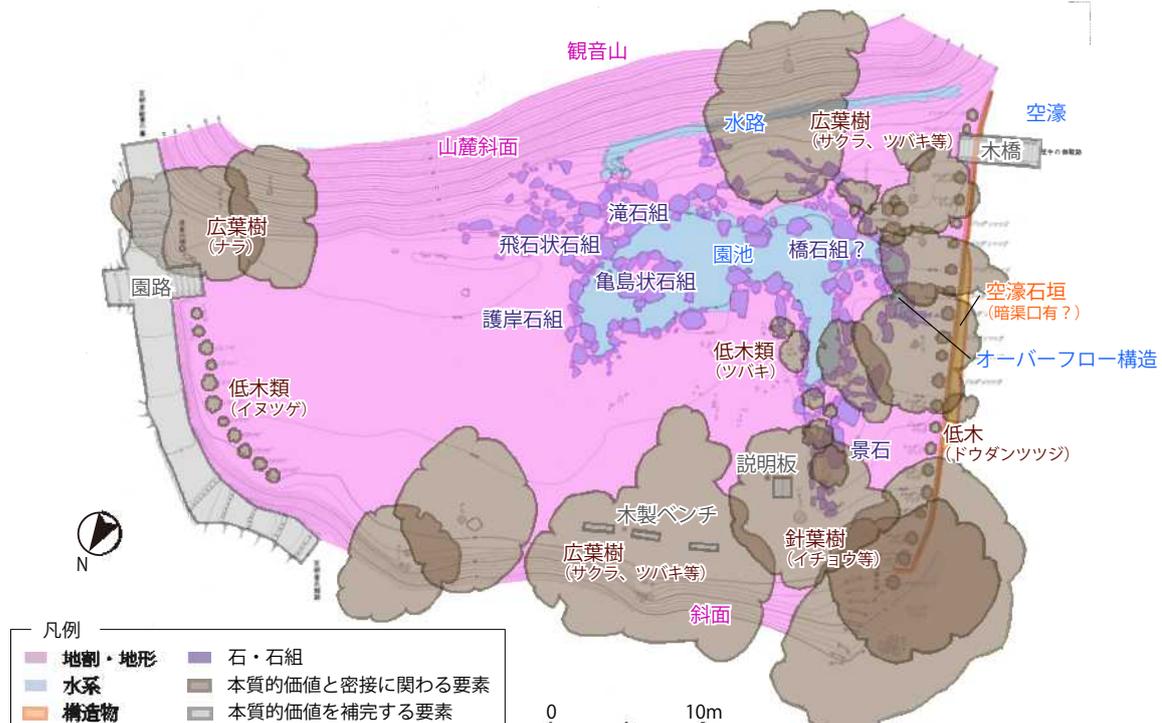
高台に位置した平坦面からは、朝倉館跡庭園内や復原町並方面の景色を望むことができる。

②本質的価値と密接に関わる要素

園池の東から南にかけて植栽された樹木（イチョウ・サクラ等）は庭園の景観構成に資する要素となっている。

③本質的価値を補完する要素

平坦面の西側沿いには、木製ベンチや案内板が設置されており、南西面には柵が設置されている。



〔図4-9〕 湯殿跡庭園 構成要素図（「朝倉氏湯殿跡庭園 平面実測図」（昭和57年）に一部加筆）



[写真 4-27] 園池【水系】



[写真 4-28] 橋石組跡【石・石組】



[写真 4-29] 滝石組【石・石組】



[写真 4-30] 亀島状石組【石・石組】



[写真 4-31] 礎石（観音山）【石・石組】



[写真 4-32] 石組水路【水系】



[写真 4-33] 排水路【水系】



[写真 4-34] 空濠石垣【構造物】

(2) 現状における課題

①本質的価値を構成する要素

【地割・地形】

- ・表土や斜面地の洗掘
- ・斜面地崩落への対策が未実施
- ・観音山・空濠等の一部が特別名勝指定範囲外

【石・石組】

- ・一部の景石において亀裂の入った著しい損傷及び割れや著しい剥離等の劣化
- ・景石の一部細粒化

【水系】

- ・導水経路及び排水経路の未整備
- ・石組水路や園池内への土砂の堆積
- ・枯池化

【構造物】

- ・石垣等の割れや剥離等の劣化

【共通】

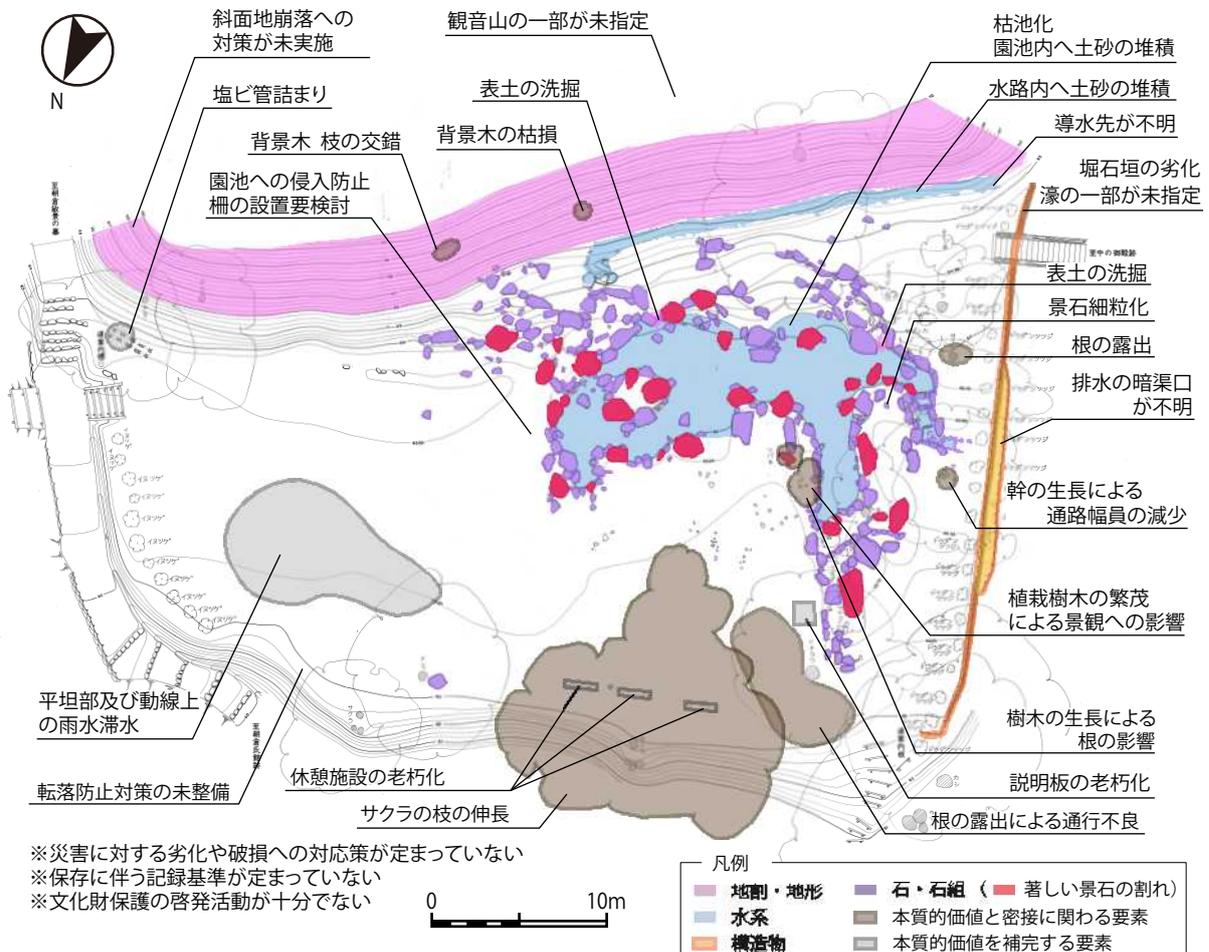
- ・劣化予防及び早期対応策の未整備
- ・保存に伴う記録基準が未設定

②本質的価値と密接に関わる要素

- ・樹木の生長による地上及び地下遺構保存への影響や庭園鑑賞に関わる景観への影響、園路幅員の減少及び通行不良
- ・枝落下の危険性があるサクラの枝の伸長
- ・背景木の枯損や枝の交錯

③本質的価値を補完する要素

- ・北斜面側の転落防止対策の未整備
- ・遺構保存に支障をきたす恐れのある自由動線
- ・説明板構造物や休憩施設の老朽化
- ・平坦面及び動線上の雨水滞水
- ・堆積土による塩ビ管の詰まり



[図 4-10] 湯殿跡庭園内の課題（「朝倉氏湯殿跡庭園 平面実測図」（昭和 57 年）に一部加筆）



【写真 4-35】 斜面地の洗掘【地割・地形】



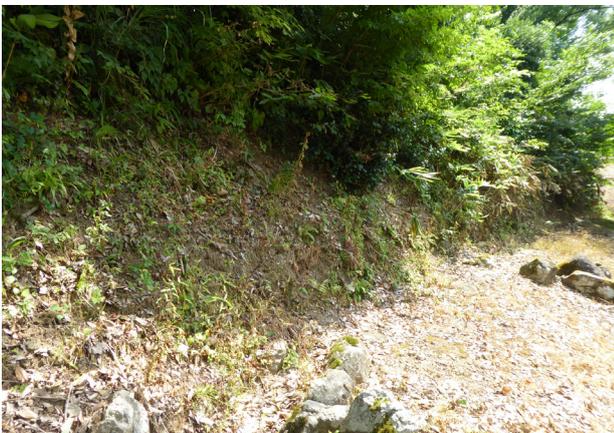
【写真 4-36】 表土の洗掘【地割・地形】



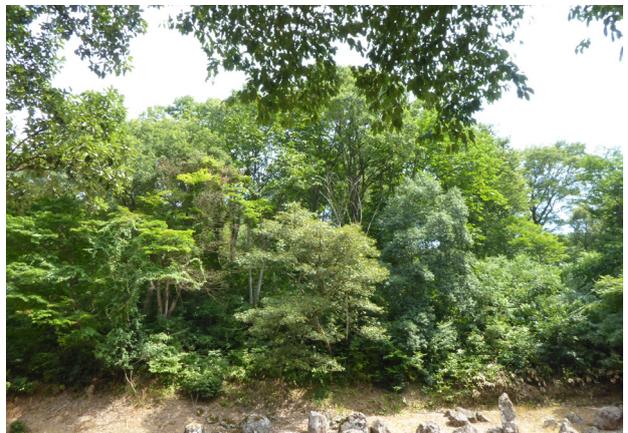
【写真 4-37】 低木の根の影響【石・石組】



【写真 4-38】 景石の割れ【石・石組】



【写真 4-39】 水路への土砂堆積、不明瞭化【水系】



【写真 4-40】 背景木の管理【本質的価値と密接に関わる要素】



【写真 4-41】 根の露出による通行不良
【本質的価値と密接に関わる要素】



【写真 4-42】 園路内への根の露出
【本質的価値と密接に関わる要素】

第3項 諏訪館跡庭園

(1) 構成要素

①本質的価値を構成する要素

【地割・地形】

本庭園のうち最も南にあり、高台に位置する。平坦面は上段と下段に分かれ、敷地の高低差を利用し東側の土塁を背景に園池が設けられている。庭園の北及び西には斜面があり、その北側には園池の水源である諏訪川が流れている。

【石・石組】

園池や流れは護岸石組によって構成され、上段と下段それぞれに滝石組が設けられている。また、園池上段と下段いずれにも多くの景石を配置している。

【水系】

園池は、庭園の北側を流れる諏訪川が水源となっており、発掘調査により検出した暗渠を用いて導水されている。導水された水は、高低差を利用して園池上段の滝石組から流れを介して園池へ流れ込む。園池北側の流末に後世の排水路があり、暗渠管によって諏訪川へと排水される。

暗渠口からの導水は、滝石組への流れのほか、湧泉様石組への流れの可能性も指摘されている。

【建造物】

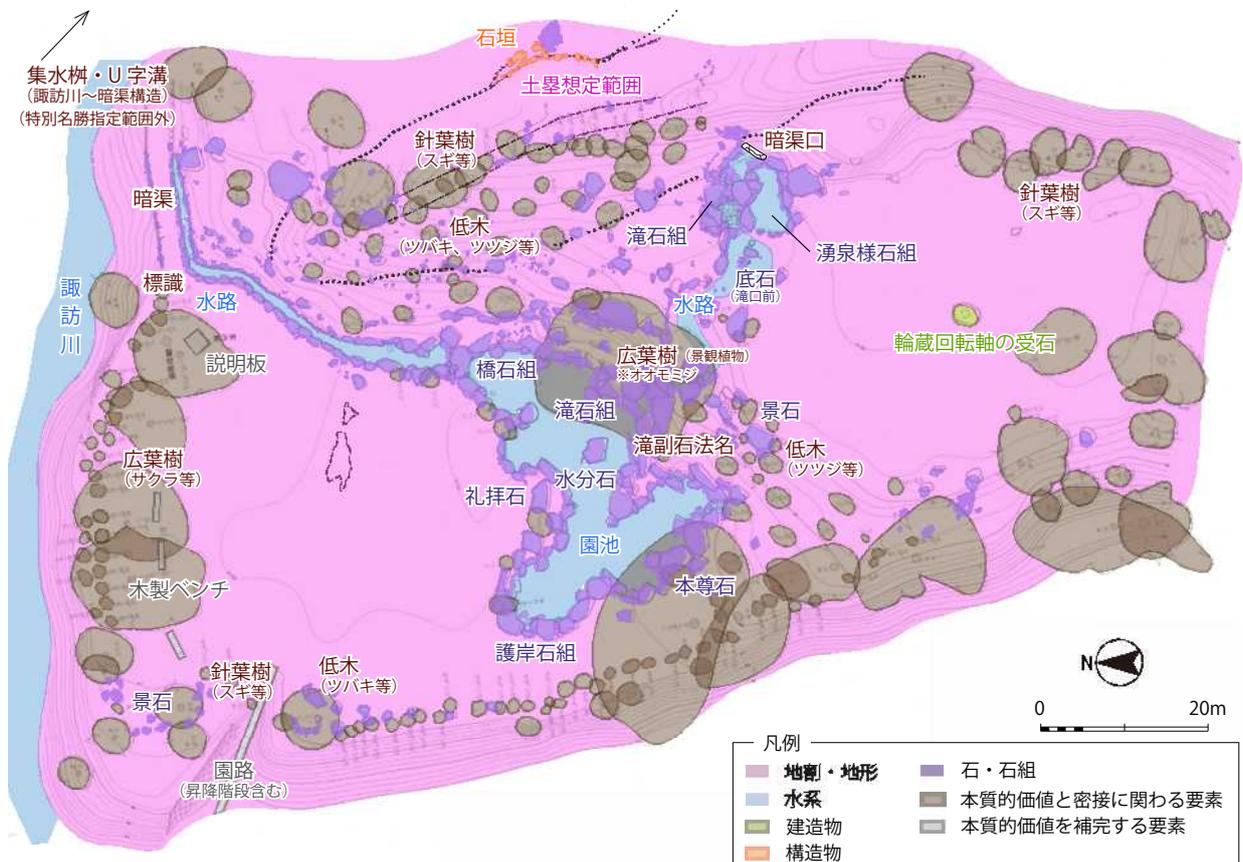
上段の平坦面には、リンズ（輪蔵）の存在が推測されており、その回転軸となっていたと考えられる受石が現存している。

【構造物】

庭園の背景となる土塁状の高まりには、一部石垣と推定される石積が存在している。

【その他】

庭園の西側には、復原町並や上城戸跡方面の景色が広がる。



〔図 4-11〕 諏訪館跡庭園 構成要素図（「朝倉氏諏訪館跡庭園実測図」（昭和 57 年）に一部加筆）

②本質的価値と密接に関わる要素

園池の中央に位置する滝石組に接して実生のオオモミジがあり、庭園の景観を構成している。また、園池の上段にはツバキやツツジ等の低木類があり、その奥の東側には人工林であるスギ等によって背景が構成され、諏訪川から取水するために集水桝やU字溝を整備している。

③本質的価値を補完する要素

案内板や木製ベンチ、説明板が北側斜面地に面して設置されている。



[写真 4-43] 園池【水系】



[写真 4-44] 本尊石【石・石組】



[写真 4-45] 橋石組【石・石組】



[写真 4-46] 礼拝石【石・石組】



[写真 4-47] 上段の滝石組【石・石組】



[写真 4-48] 排水路【水系】



[写真 4-49] 輪蔵回転軸の受石【建造物】



[写真 4-50] 石垣【建造物】